

鳥ヶ辻旧校舎の全景

くしてここに鳥ヶ辻校舎が新しく誕生したのである。

この新校舎の完成については、当時の「大阪毎日新聞」が次のような書き出しで詳細に報道している。「大阪第一の大学校舎」というよりも関西第一の大学校舎といつた方が適当かもしれぬ。豪壮雄大なイングリッシュ・ルネッサンス式の煉瓦

これらの卒業生は、「赤煉瓦」で象徴され、「鳥ヶ辻」または「鳥丘」の言葉で愛称されていた旧校舎について「というよりも校舎で通した青春時代の学窓生活について」といった方が適当かもしれぬ。数かすの想い出と懐かしさを胸中深くいだいているに違いないと思われ。ところが現在の鳥ヶ辻町は、戦災に

記念碑建立の要望

そしてその空模様は私自身の心を投影していたように思われる。新しい環境で慣れぬ事ばかり、そして緊張の日々そんな時に帰っての旧友に会えるということは一つの慰めでもあった。

さて、会場では諸先輩方の今は各々の職場で中核となり活躍しておられるであろう姿を見、かつてのクラスメートあるいは同じ大阪市役所に入った連中の元氣なそしてチョッピリ疲労のかけりも見え顔を、同窓会の気分浸ったのであった。

第三十三テーブル、このテーブルが私の席となった。十名のうち二人の女性が華をそえてくれた。同窓会ということでは

鳥ヶ辻旧校舎跡に記念碑建立

四月二十六日除幕式を挙行

以上大変拙い文章を続けてしまいました。たがとにかかたいへん有意義な一日でした。どうもありがとうございました。そして、総会に出席することを推していただきました坂先輩どうもありがとうございました。

雑感

高松 茂

その日は夕方から雨が降り出してきた。市大の同窓会、有恒会の集いが開かれる日の夕方、五時前に勤務先を退出し、当会場へと向かった。会場に着いた頃には、降り出した雨もあがっていた。

有恒会においては、かねてから、母校・大阪市の前身である大阪商科大学が昭和三年から九年まで、また、その前身である大阪市立高等商業学校が明治四十四年から昭和三年まで、現在の大阪通信病院の敷地にあったことを記念して、記念碑を建てる計画を進めてきたが、本年三月ようやくその具体案の確定をみたので、同月初旬に記念碑建立の工事に着手、同月下旬に完成した。よって四月二十六日の吉日を選び、関係者の出席を得てさやかながら除幕式を挙行して、これを披露するとともに、感謝の意を表明した。去る四十七年十一月の常務委員会で、会員の強い要望により記念碑建立の議が確定し、以来、役員会で具体案の作成に検討し、検討を重ねてきたのであるが、関係者の努力と協力によってこの要望が立派に結実したわけで、母校のため、また、会員にとつてまことに慶ばしい次第である。

鳥ヶ辻校舎のおいたち

明治十三年創立以来九十五年の輝かしい歴史をもつ母校は、明治四十二年の頃には、すでに市立大阪高等商業学校として、その校舎が北区堂島浜通にあった。ところが同年七月に突発した「北の大火」は、一瞬にしてこの校舎を灰燼に帰せしめた。そこでやむなく一時、江戸堀南通の仮校舎に移転するとともに、かねてから校舎新築予定地として定められていた上町丘陵の一角を占める、鳥ヶ辻町に新校舎を建てることとなり、翌四十二年五月に起工、一年後の四十四年四月に落成し、五月に仮校舎から移転した。か

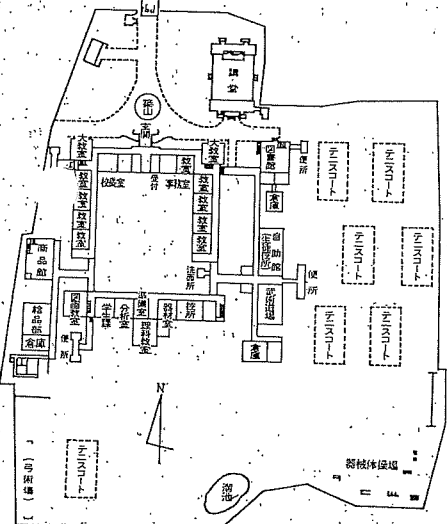
よって当時の面影をほとんどとめないまでに変貌し、かつての「赤煉瓦」の建物は跡たもなく、その跡地らしい所には白亜の大坂通信病院が建てられている。このような現状から、当時の卒業生のうちには、母校の校舎があった所を何等かのたちで彰らかにし、これを後世に残したいという強い声があった。この声を代表して去る四十七年十一月二十日の本会常務委員会の席上、昭三会の杉本義雄委員から、鳥ヶ辻の旧校舎跡に有恒会において記念碑を建てられることを要望する動議が出された。審議の結果、この提案の趣旨は全会一致で採決され、常務委員会を中心としてその具体化について検討することが決められた。

具体案の作成と記念碑の完成

常務委員会の決議にもとづき、本会事務局においては、具体案の作成にとりか

鳥ヶ辻旧校舎階下平面図

(市立大阪高等商業学校三十五年史 一二九頁)

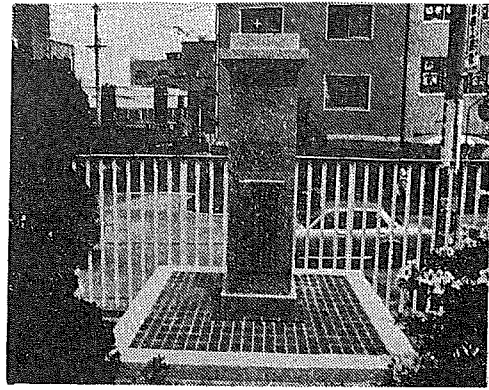


かった。しかし四十八年中は、記念碑構想の模索、旧校舎跡の实地確認、大阪通信病院側の意向打診など予備的段階で終わった。旧校舎跡の实地確認については、当初若干問題があった。現在、通信病院の北側(玄關前)には、東西に「上本町猪飼野線」と呼ばれる幅員十五メートルの都市計画街路ができていた。これは鳥ヶ辻校舎時代にはなかったもので、大阪市土木局での調べによると、戦後の戦災復興地として昭和二十六年から三十年にかけて建設されたものである。このため、旧校舎の北側の境界線と、現在の病院の北側の境界線とが異なっており、当初疑問がもたれた。しかし、大阪通信病院二十年史に掲げられている同病院敷地図(九頁)と、市立大阪高等商業学校三十五年史(大正四・三・三〇発行)に掲げられている鳥ヶ辻校舎面図(一二九頁)を参照した結果、また事務局が附近住民に实地にあたってみた結果、前記境界線は一致することがほぼ確認できた。

もつと多くの同窓が来るであろうと期待していたが、顔なじみの連中は三十名位であったろうか。でもこの同窓会を通して新しく顔なじみもできた。少なくともこの第三十三テーブルの席に着いていた人達とは。

は、本年卒業した法学部の者で占められていたが、私自身、もつと先輩の方と話をしたいと思った。でもこれから先、何十年も同窓会に出席することになれば、交流もでき、もつと人の輪を拡げることができのではないかと思ひ、これから(会費が無料だから出席したのではなく)多くの先輩、同輩あるいは後輩の輪に入るべく、機会あるごとに出席したいと思つている次第です。

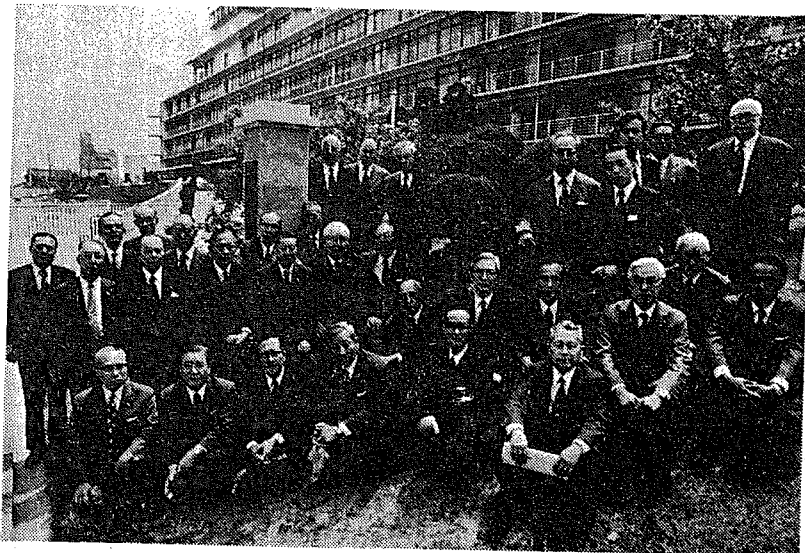
追記 最近、やや職場にも慣れてきたけれども、拘束されることが多く、自由な雰囲気には満ちていた学生時代を懐しく思っている次第です。(法昭五〇卒・大阪市役所勤務)



烏ガ辻旧校舍跡記念碑(背面)

イルで敷き詰められた土台の上に建てられてあり、柱石は大理石とまがうまに磨かれた白みかげ石と赤みかげ石とが交互にあしらわれている。しかし、ほとんど色の区別はつかない。
碑の正面には、黒みかげ石の名板が張られ、「大阪市立高等商業学校・大阪商科大跡」と並列させて彫り込まれている。この文字は、前の道路を通る人も明瞭に読むことができる。また、碑の背面にはその下部に次のような説明文が彫り込まれている。
この記念碑は、現在の大阪市立大学の前身である大阪商科大学が昭和三年から九年まで、またその前身である大阪市立高等商業学校が明治四十四年から昭和三年まで、この地にあったことを記念し、当時の正門門柱をかたどって建立したものである。
昭和五十年三月 有恒会
工事請負人が大阪市の指名業者だけあって、ガッチリとした、見事なできばえである。

除幕式終了後、一回記念碑を背景にして記念撮影におさまる。
記念撮影を終ったのち、病院側の厚意によって提供された五階の集会室を借用して、ささやかな祝賀会を開く。参列者一同これに出席する。
出席者は次のとおり(敬称略)。
来賓
(市大関係者) 森川晃卿学長、野元隆司事務局長、島尾清事務局長次長、北野嘉治事務局庶務課長、山根節郎同管理
除幕式参加者記念撮影

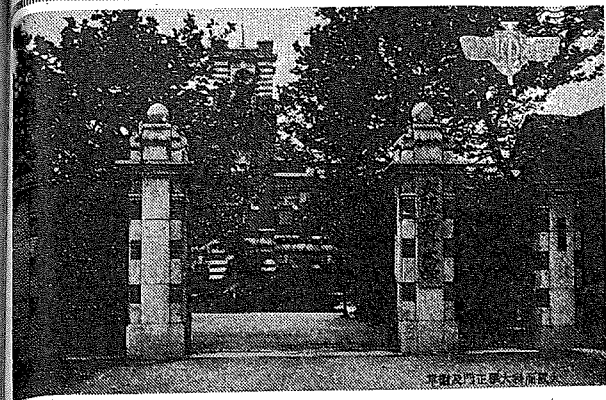


除幕式参加者記念撮影

除幕式終了後、一回記念碑を背景にして記念撮影におさまる。
記念撮影を終ったのち、病院側の厚意によって提供された五階の集会室を借用して、ささやかな祝賀会を開く。参列者一同これに出席する。
出席者は次のとおり(敬称略)。
来賓
(市大関係者) 森川晃卿学長、野元隆司事務局長、島尾清事務局長次長、北野嘉治事務局庶務課長、山根節郎同管理
除幕式参加者記念撮影

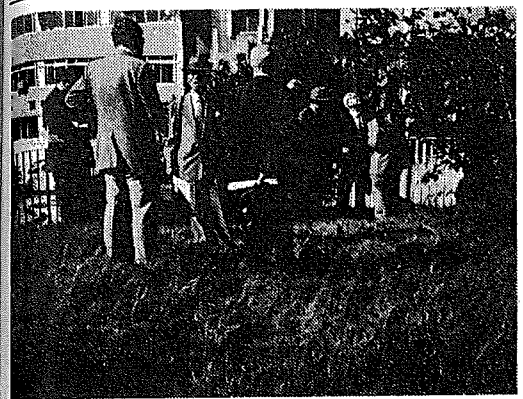
猪崎久太郎会長、村井八郎・藤本元次郎各副会長、建石辰治・赤松彬・杉本義雄・小島誠・生川栄治(商学部代理)と兼務、高津豊久・奥村吉太郎・佐々木健二・井尻吉太郎各運営委員、吉崎正之助事務局長、武田修・佐々木勇・栗田政勝各事務局関係者 合計 三三名
まず猪崎会長が立って大要次のような挨拶をし、関係者にお礼のことが述べられた。
「いろいろむづかしい問題があったが、通信病院と当局から、敷地の使用について心よくご承諾をいただき、碑ができたこととなり、慶びに堪えない。
当時の烏ヶ辻の母校は、私たちにあっては、憧れの的であったし、心のふるさともある。当時の赤煉瓦の校舎は、私たちの脳裏に深く残っており、これ

祝宴でお礼の挨拶を述べた猪崎会長
よって母校のことを思い出す。
烏ヶ辻校舎は、明治四十四年から昭和九年まで続き、この間昭和三年に商科大となつたが、当時の母校は東京高商(商大)と並ぶ立派なものであった。その卒業生は、第一線で華々しく活躍してきたし、またしつとあり、母校についての想い出はいろいろあろうと思うが、この想い出ができる手だてとして、あのような立派な記念碑ができたのは、病院・学校と当局の格別のご配慮によることはもちろんであるが、一面、運営委員各位にもい



大阪商科大学当時の正門

運ぶこととなった。
記念碑構想の具体化については、本会常務委員会および運営委員会(常務委員に付置された専門小委員会で、委員長は水谷秀雄副会長)で審議されてきたのであるが、四十九年度中に運営委員会で審議すること五回、常務委員会で審議されること二回に及び、この間千余曲折を経て五十年三月、ようやく具体案の確定をみるようになった。
四十九年七月五日の運営委員会に提出した記念碑設計図の事務局試案は、たて長式および横長式の一般的な形状のものであった。しかし、このような形状の碑石を病院の構内に建てることは、患者に墓石の感じを与えはしないかという配慮から廃案となり、これに代え、当時の校舎正門門柱をかたどって、記念碑の背面に、建立の所以を説



た形状のものとするというアイデアが採択された。このアイデアにもとづいて作成した門柱式記念碑設計図案が、九月十一日の運営委員会で採択された。
さらに九月十七日の常務委員会において、運営委員会で決定した原案の一部が修正され、記念碑の土台として一間平方のコンクリート基礎を設け、土台の上部は煉瓦を敷くことに変更された。なおその後、適当な煉瓦の入手難のため、煉瓦に代えてイナタイルを使用することとなった。
十月四日、運営委員の一行が大阪通信病院を訪れ、病院側の案内によって構内を实地視察のうえ、病院側と協議して記念碑の建設位置を決定した。
十一月十四日の運営委員会において、記念碑の背面に、建立の所以を説

昭四九・一〇・四 烏ガ辻旧校舍跡(現大阪通信病院敷地)を視察する運営委員の一行
四月二十六日(土)十一時から、大阪通信病院構内において記念碑の除幕式が挙行されることとなった。二、三日前から天気がよく晴れていたため、当日の天候が気遣われたが、さいわい、好天気に恵まれて関係者を安堵させた。
定刻十一時前から次々と参列者が姿を見せはじめたが、病院側の厚意により一階に設けられた控室で休息し、雑談にひ

明する碑文を彫り込むという新しい方針のもとに、事務局の文案が種々審議された。しかし、当日は決定を保留し、なお念のため、母校の文学部の国文学担当教授に、字句・表現等について諮らうと決めるという慎重な結論となった。かくて母校の国語国文学担当の井出至教授の検討を煩わし、さらに原文案を整理し、この文案が本年一月二十三日の運営委員会で本決りとなった。
以上のようなジグザグコースをたどりながらも慎重な審議を重ねられた結果、同日ようやく運営委員会の最終案が決定したのであるが、この最終案が三月七日の常務委員会で原案どおり承認され、ここに記念碑建立計画が確定した。すでに前日の三月六日から基礎工事に着手していたが、この計画にもつき本格工事に入り、年度内完成をめざし工事を急いだ結果、同月二十五日に完成した。
なお、記念碑建立のための所要経費は、母校市大当局ならびに財団法人大阪市立大学後援会の格別の配慮により、同後援会から支出されることとなった。また、大阪通信病院に対する記念碑建立の許可申請手続は大学当局によっておこなわれ、さらに建立後の記念碑の維持管理についても大学当局によっておこなわれることとなった。



とときを過ごす。
十一時に、一同病院側の案内によって現場に赴く。現場は、構内の西北端部の芝生の斜面にあり、記念碑は、病院の北側の道路(上本町猪崎野線)とは、鉄柵で隔ててわずか二メートルのところで、道路に面して建てられている。
一同、記念碑を中心としてその周囲に列ぶ。碑には、あらかじめ業者によって幕が覆われており、碑の傍らには白赤のつつじの花が満開して美しい。吉崎事務局長の開式のことばで、記念碑の傍に進み寄った猪崎会長の手で、白い幕が静かに引き降される。高さ一八〇センチ、巾・奥行各五センチの門柱をかんたんに記念碑が参列者の前に清楚な姿を現わす。その瞬間、感激の拍手がおこる。
碑は、白みかげ石で囲まれ、朱色の夕

いろいろ世話になったことを感謝している。ここにこれらの関係の方々からお礼を申しあげた次第である。最後に会員各位におかれてはどうか、立派な記念碑ができたことを同窓の方々にお伝え願って、心のふるさとを思い出していただきたい。

次いで森川市大学長から、「本年は学校創立以来九十五年になるが、この記念すべき年に、高商・商大の記念碑ができて、まことに慶ばしい。どうか末ながく記念していただくよう願うとともに、衷心からお祝い申しあげる」旨、祝詞が述べられた。

第十回全国寮歌祭次第

多羅尾善之

昭和五十年五月十日(土)の真昼どき、大阪中之島は中央公会堂の赤煉瓦に初夏の日射が明るくまぶしい位です。恒例の全国寮歌祭もいよいよ今年も記念すべき第十回を迎えて、例年よりも一段と華々しく開催されました。

まことに光陰は矢の如く申します。が、第一回の全国寮歌祭にわが大阪商大が初参加すると、心斎橋をこの会議室でめいめい喧々騁々の熱論を戦わせたこともつい昨日の事のように思われます。この、早くも十年一昔となつてしまつたわけです。

既に五月六、七、八の三日間、梅田新道の同和火災ビルの地下にある昔懐かしいアサヒアハウスで連夜の前夜祭が開催され、六日の夜にはわが大阪商大が東

また、上林大阪通信病院院長からも「立派な記念碑ができあがりおめでとう。病院としてもできるだけの協力を申しあげたが、今後とも協力を惜しまない所存である」旨、祝詞が述べられた。

最後に、本会京都支部部長高岡定吉氏と、神戸有恒会長谷口三郎氏から寄せられた祝電の披露があつてのち、清交クラブ仕出しの折詰弁当とサービスで祝宴に入り、一同大いに歓談し、有意義なひとときを過ごした。

(事務局 佐々木勇記)

で、大いに意気昂扬して居ります。今年の名太鼓手のシンボル安田博氏(学昭一)がご静養中の事として、水谷秀雄委員長(学昭八)以下実行委員会全員が大いに頑張つて動員とカンパに努力したお陰でしようかと、定刻二時ともなれば続々と同窓歴戦の勇士達の顔が揃い、参加者名簿人員実に七十八名という全校一位、空前の盛会と相成りました。

殊に今年には安原守規氏(高昭七)の率いる剣道部の猛者十五名の集団参加が一際目立って居ります。

中入り休憩の後、例年の如く大阪市立大学森川学長が祝辞に登壇され、地元大阪商大の歴史と現市大への発展に就いて朗々と名解説を賜り万雷の拍手を浴びられました事も、私達一同にとつてまことに



さあ、いよいよ本番開始です。舞台上には白地に真紅の文字で「大阪商科大学豫科」(旧漢字に留意)と大書した大幟二旗と手振旗七旗がはためき、広い公会堂の壇上狭しとはかり打並んだ群衆に学生情の大群の中に、剣道

立ちます。最初に水谷委員長が進み出て、例のマイク不要の大音声にて、寮歌祭の殿堂であるこの中央公会堂が吾等の大先輩若本栄之助氏により巨費を投じて建立され、大阪市民のために寄附された由来を懇々と述べられ、「その検舞台で只今われら後輩が心をこめて皆様に捧げる「桜花爛漫」を、どうか拍手をもって迎え下さい」と結ばれた瞬間、満場嵐の如き大喝采が湧き上がりました。

続いてお馴染多羅尾副委員長(学昭一八)のプロローグが流れ、大会随一の名歌「桜花爛漫」がゆつくりと力強く一番二番三番と歌われて場内を隔々迄しんとさせたと、水谷リィンとさせたと、市大の万才三唱で三度目の大拍手が満場を圧し去りました。

一末尾を飾るべき「血盟歌」のストームの演出が、委員指示の不徹底のためか意外に盛り上がりません。まことに、少しかつてお終つてしまつた感を感じませんが、これは矢張り練習会に参加されず当日初めて舞台上に上がった方が多かつた事にも一因があると思われまふ。

ともかくにも、次に登場した東京・神戸二商大の連合軍との引継ぎと交歓の握手で何とか格好もついて目度く終了致しました。

その後は例年の如く正面玄関の階段で



杉浦忠一氏(高一四年)スケッチ

全国寮歌祭見聞記

栗根久市

晩春の五月十日、恒例の全国寮歌祭が大阪中之島の中央公会堂で開催された。大阪は今年で十回目、東京の日本寮歌祭は十五回目だそう、年々この種の催しは盛んになり、近頃は全国二十箇所位で開かれる程に市民の間に定着しつつある様である。言う迄もなく寮歌祭は旧制高

校と旧制大学予科のO・Bが多感の三春秋を偲んで、そのシンボルである母校の寮歌・道遥歌を聲高らかに歌い、且つ躍る青春讃歌の祭である。

私も今は亡き学友S君から一度出場し、いかと度々誘いを受けたが予科の経歴がないばかりか、S君程の猛男もなく、最



早この年で今更との気おくれもあつて、出場はおろか一度も見聞したこともなかった。ところが四月中頃有恒会の寮歌実行委員会から、今年も記念すべき十回目、一人でも多く誘い合わせて来たのを見た。女房、今度はどうしても行きたいという。前からの約束不履行もあつて、折柄の国鉄ストをもいとわず、老妻を伴つても角も出かける破目と相成つた。

薫風爽やかに頬をなでる中の島、目にしみる様な新緑、

の制服と朴拙の高下駄で身を固めた者もあり、中には古稀を過ぎたであろう老人迄がマントを羽織り、各校共旗と幟と陣太鼓の小道具を背景にして、舞台狭しと高唱乱舞する勇姿に、あきれるやら敬服するやら唯々圧倒されるばかりであつた。ふと見ればわが大阪商大予科の巻、画面の中でS君が意気軒昂あたりを揺る様に歌い且つ躍つて居るではないか。自ら寮歌祭馬鹿と称した熱血漢の彼、惜しくも病に斃れてすでに三年を過ぎたが、今若し世にあらば今日の佳き日さぞかし

開会に先立ち、十年前NHKから放映された思出の第一回参加三十六校の録画が次々上映された。白線帽に紋付の羽織袴、腰に手拭をぶら下げたものもあれば、徽章入りの手拭を鉢巻に霜降り